

伊藤圭介生誕210年記念展

東山に眠る 本草学の宝

第9回名古屋大学ホームカミングデー

東山動植物園東山再生フォーラム特別企画

伊藤圭介生誕210年記念展

東山に眠る本草学の宝

主催：名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室
共催：名古屋大学博物館、名古屋市東山動植物園



日時：2013年10月19日(土) 10時～16時

場所：豊田講堂アトリウム

I 名古屋大学と圭介

伊藤圭介は、明治十二傑のひとりに数えられています。漢方・蘭方医学を学び、尾張本草学の発展にも貢献しました。研究の成果として体系的な図説等を著し、名古屋大学附属図書館には伊藤圭介文庫として188冊の著作物が所蔵されています。

また名古屋藩庁あてに医療総合機関の設立に関する建議書を提出し、名古屋大学の前身となる仮医学校の設立のきっかけを作りました。



伊藤圭介
(写真:名古屋市東山植物園所蔵)

1.『種痘所用留』鈴木常明編 1冊 大正元年(1912)写

(名古屋市鶴舞中央図書館所蔵)

2.種痘用具一式 明治中期

(名古屋大学附属図書館医学部分館所蔵)

伊藤圭介は嘉永3年(1850年)に自宅に種痘所を開設し、施術を開始しました。さらに嘉永5年(1852年)に尾張藩の種痘所を山田町に開設し、地域の人々への種痘の知識の普及活動に努めました。これらの努力により、尾張藩牛痘接種はめざましく進展しました。



II 本草学と圭介

本草学と漢方医学・蘭方医学を軸として、伊藤圭介は国内外を問わず、さまざまな研究者と交友関係を築いていました。ここでは、本草学に関する簡単な説明とともに、尾張地区で発展した尾張本草学を紹介し、さらに、尾張本草学とその系譜に連なる人物を交えつつ、尾張本草学と圭介の関連について、尾張本草学において圭介の果たした役割について紹介します。

3.『本草綱目』(明)李時珍編輯(明)錢蔚起較訂 全52巻39冊 寛文12年(1672)刊

『本草綱目』は中国の本草学史上において、分量がもっとも多く、内容がもっとも充実した薬学著作です。明の李時珍が1596年に諸本草書を集成・増補して出版しました。日本でも多数の版が和刻本として出版され、幕末に至るまで本草学の基本書として尊重されました。本書には貝原益軒傍訓『本草綱目品目』が付されています。展示資料は伊藤圭介の後継者で孫の植物学者、伊藤篤太郎の旧蔵書です。



4.『泰西本草名疏』伊藤圭介編 全3巻 文政12年(1829)刊

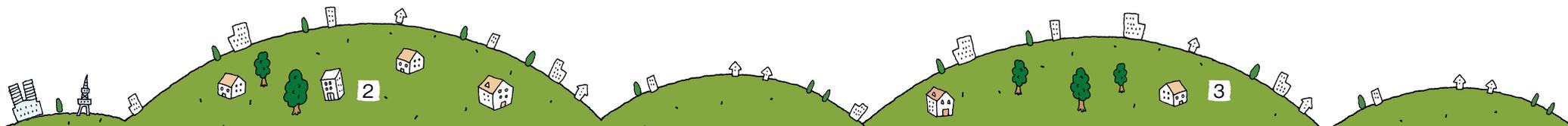
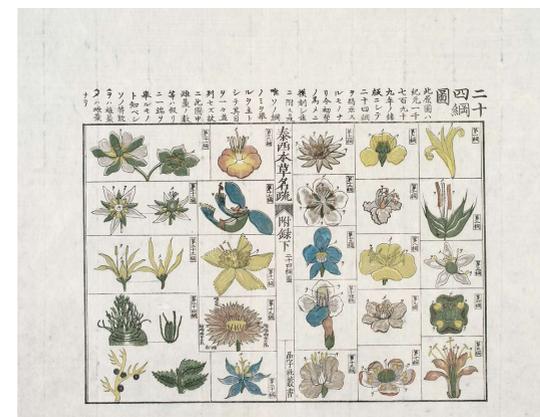
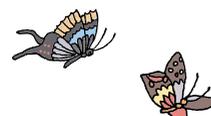
文政11年(1828年)3月、圭介は長崎を去るに際して、シーボルトから餞別としてツェンペリ(C.P.Thunberg)の『日本植物誌』(Flora Japonica, 1784)を贈られました。それを訳述編集したものが『泰西本草名疏』です(私家版、文政12年(1829年)名古屋で出版)。

本書は、植物710余種の学名と和名・漢名を考定し、リンネの24綱分類法による綱・目・属(類)・種の分類段階を説き、巻末にそれを図示したもので、わが国に近代植物分類学を体系的に紹介した最初の書として画期的な重要性を持っています。現在も使われている雄蕊(おしべ)・雌蕊(めしべ)・花粉など数多くの植物学用語も、この時に創案されたものです。また、本書にはシーボルトの意見が数多く載せられていますが(和名の下に○印で表示)、凡例では、前年に起きたシーボルト事件の筆禍を恐れて稚膽(わかい)八郎(流布本では西医椎氏)の変名でそれが暗示されています。

5.『二十四綱図』 文政12年(1829)刊

(名古屋市東山植物園所蔵)

4の『泰西本草名疏』附録巻に挿入されている、近代植物分類学の創始となったリンネの雌雄蕊にもとづく「二十四綱分類体系」を示した図。



Ⅲ 錦窠図譜

幕末から明治にかけて活躍した有数の博物学者であった伊藤圭介は、動物や鉱物など、自然界の物産に広く通じていました。なかでも、特に情熱を注いだのが植物学です。圭介が晩年にそれらの知識を可能な限り残そうと著し、あるいは編集した図譜から、身近なもの、珍しいものなどを紹介します。

『錦窠植物図説』

春の植物



桜譜 (東山植物園所蔵)



第75冊
ドウダンツツジ

夏の植物



第87冊 ヒトツバタゴ



第29冊 レイン



秋の植物



第8冊 スイフヨウ



第33冊 カエデ(印葉図)

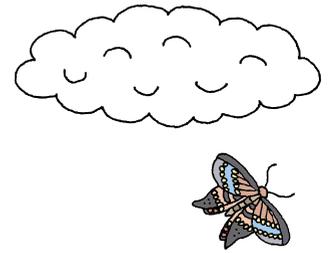
冬の植物



第5冊 ツバキ



第21冊 ベニミカン

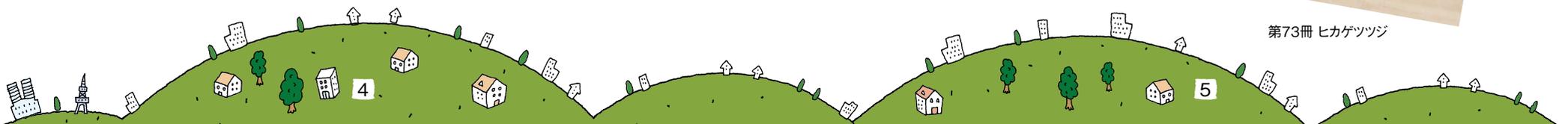


学名に圭介の名が付いた植物

圭介は自分で採集した植物の標本をシーボルトに寄贈しました。これらの標本の中から見つかった新種の中には、圭介の名前が学名につけられているものもあります。ヒカゲツツジ (*Rhododendron keiskei* Miq.) はその一つです。



第73冊 ヒカゲツツジ



『錦窠蟲譜』



第8冊 キアゲハ



第7冊 ハッチョウトンボ

『錦窠動物図説』



アメフラシ

『錦窠魚譜』



第17冊 アンコウ



第12冊 マトウダイ

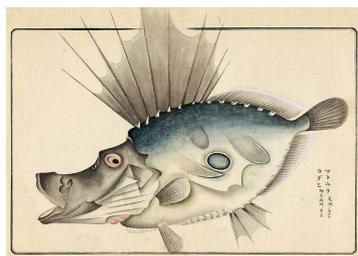
『錦窠獣譜』



ラクダ

奈良坂源一郎『蟲魚圖譜』

(名古屋大学博物館所蔵)



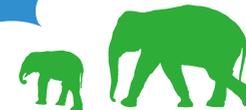
分冊四
マトウダイ

電子展示「錦窠図譜の世界」▶ [伊藤圭介文庫](#) で検索

※所蔵の注記がないものは、すべて名古屋大学附属図書館中央図書館所蔵です。

Ⅳ 「東山動植物園再生プラン」進行中

「東山動植物園再生プラン」進行中



ようこそ!!進化し続ける
「歴史と文化に育まれた人と自然のミュージアム」へ!

1937年(昭和12年)の開園以来、市民の憩いの場として親しまれてきた東山が、今生まれ変わろうとしています。開園当初からの建造物や大きく育った樹木、都会の中に残る豊かな自然などの今ある魅力を大切にしながら、もっと身近に、もっと楽しく自然とふれあうことができる動植物園を目指します。



重要文化財温室の保存修理

平成 31 年度オープン予定

平成 25 年 9 月 28 日 オープン

新アジアゾウ舎『ゾーリアム』

整備スケジュール

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	～	平成48年度
アジアゾーン(アジアゾウエリア) 整備			施設の状況、利便性等を勘案し順次整備				
アメリカゾーン(北アメリカエリア) 整備							
アフリカゾーン(アフリカの森エリア) 整備			施設の状況、利便性等を勘案し順次整備				
重要文化財温室、歴史的施設等 整備							
サービス施設、便益施設、園路、サイン等 順次整備							
環境教育、種の保存、調査研究、管理運営などのソフト施設 順次拡充							
東山の森づくり 整備			市民協働による東山の森づくりを推進				

伊藤圭介の遺品や資料は東山植物園にも膨大な点数が保管されており、名古屋市指定有形文化財(歴史資料)として登録されたものだけでも1,626点にのぼります。これらは東山植物園内の伊藤圭介記念室において順次展示して皆様にご覧いただいています。

